



NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2025 / April No.106 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine

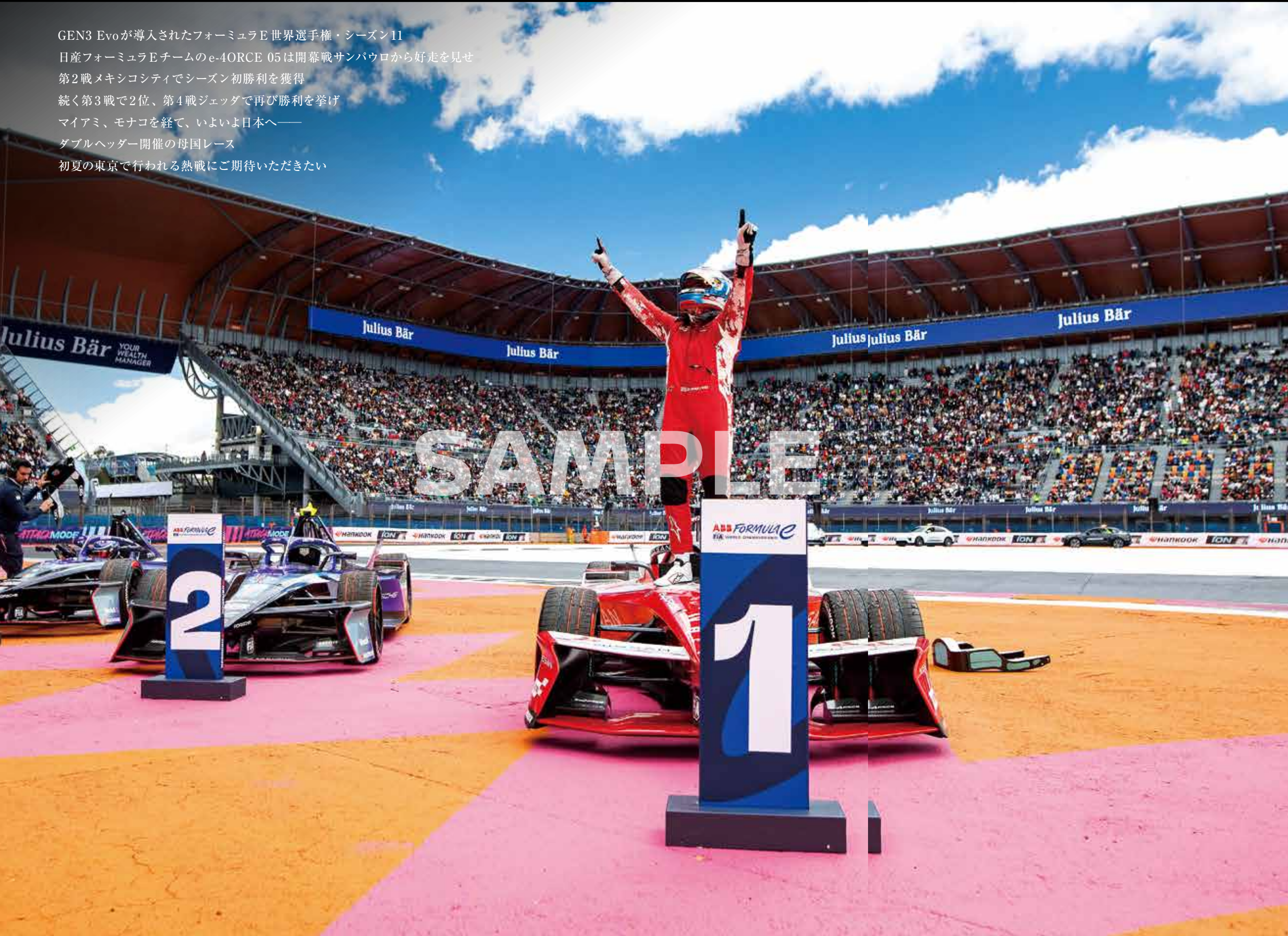
N-BLOOD
NISMO Communication Magazine
2025 / April
No. **106**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

春風、来たる

GEN3 Evoが導入されたフォーミュラE世界選手権・シーズン11
日産フォーミュラEチームのe-4ORCE 05は開幕戦サンパウロから好走を見せ
第2戦メキシコシティでシーズン初勝利を獲得
続く第3戦で2位、第4戦ジェッタで再び勝利を挙げ
マイアミ、モナコを経て、いよいよ日本へ——
ダブルヘッダー開催の母国レース
初夏の東京で行われる熱戦にご期待いただきたい



- 4 **CEO Interview**
2025年に向けて——片桐隆夫
- 8 **2025 NISSAN MOTORSPORTS PROGRAMS**
日産系GT500チーム体制紹介
- 10 **FIA Formula E World Championship Season11**
メキシコシティに続き
ジェッタでも勝利
- 14 **NISSAN MOTORSPORT DNA AROUND THE WORLD**
様々なカテゴリーで活躍する
日産/NISMOのDNAをご紹介します
- 16 **NISMO LEGEND CARS**
日産パルサー GTI-R (RNN14)
コンパクトなボディに詰め込んだ野望
- 18 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 20 **SPECIAL IMPRESSION**
千代勝正&西川昇吾
NOTE AURA NISMO tuned e-POWER 4WD
- 26 **NISMO PERFORMANCE CENTER**
群馬県に待望のNPCがオープン
NISMOパフォーマンスセンター高前
- 30 **VENI, VICI, DIDICI**
メーカーの垣根を越えた名車博物館
富士モータースポーツミュージアム誌上見学
- 34 **NISMO STAFF**
NISMOお仕事図鑑
NISMOを支えるマーケティングスタッフ
[第3回] 上原聡太
- 36 **WORKS TUNING CIRCUIT DAY**
ワークスチューニングサーキットデイ
2025年の開催が決定
- 37 **2025 RACE AMBASSADOR**
3号車と23号車を一緒に応援してくれるメンバーをご紹介
- 38 **PRESENT**
読者プレゼント
- 39 **PHOTO GALLERY**
Formula E / Jeddah E-Prix



CEO Interview 片桐隆夫

日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社
代表取締役社長兼最高経営責任者

2025年に向けて

SUPER GT GT500クラスは 4台すべてが勝てる体制で王座を目指す

期待の高まる新たなシーズンの幕開けを前に
片桐隆夫社長に体制変更の狙いや各カテゴリーの目標
そして日産/NISMOの目指すべきところを語ってもらった

4チームともに 勝つことのできる体制

N-BLOOD 編集部（以下NB）：先日、25年のモータースポーツ活動概要が発表されました。まずはSUPER GT GT500クラスの体制についてお考えをお聞かせください。

片桐隆夫 CEO（以下片桐）：コンセプトとしては“全4チームのどこが勝ってもおかしくないラインナップにしよう”ということです。TEAM IMPULとKONDO RACINGについては、両監督とも話し合いを重ね、24年のラインナップを引き継ぐことになりました。一方、NISMOの2

台は1名ずつドライバーを変更しました。3号車は佐々木大樹選手と三宅淳詞選手のふたりによるフレッシュな組み合わせです。佐々木選手はブリヂストンタイヤの経験もありますから、チームにとっては大きな存在となるはず。23号車は千代勝正選手と高星明誠選手。昨年の3号車と23号車のエースふたりを組み合わせました。どちらのチームも勝てる实力を持っていると思っています。

NB：それぞれのチームの個性が出た戦い方になりそうですね。

片桐：チームもそうですが、ドライバーの個性が強くなるのではないかなと思います。島田次郎監

督も中島健監督も、トラックエンジニアなど最前線での経験を多く積み重ねています。そこに、それぞれのドライバーが組み合わせり、どのような化学変化が起きるのか楽しみです。

NB：昨シーズンは3号車のランキング3位が日産勢の最上位という戦績でしたが、その点についてはどのように受け止めていますか。

片桐：たとえば、3号車と23号車がブリヂストンタイヤに変わりましたが、ポテンシャルのすべてを引き出し切れなかったという部分もあります。また、最低地上高を5mm上げてダウンフォースを抑制するというレギュレーションに変わり、この規定が元タローダウンフォース型の特性をもつZにとっては、少し苦しかったことも事実です。

これらが主な要因のひとつだとは思いますが、良い走りができたレースもあったわけで、チャンピオンを獲ったチームと比べると、やはり色々な部分で少しづつ足りなかったのかなと思います。ですから“これが原因です”という単純な答えを出すことはできません。

私は、SUPER GTでの強さは基本的に三要素の掛け算だと考えています。その3つとは『ド

ライバー』、セッティングも含めた『技術』、そして『戦略』。これら全部が1であれば、1×1×1となりますが、仮にそれが0.9ずつになると、掛け合わせたら0.729です。どんどん差が広がってしまいます。ですから、3つの要素がどこか足りないレースが多かったということなのかもしれません。たとえわずかな差であったとしても、最終的にチャンピオンになるかならないかの差となって表れると思います。

NB：SUPER GTがいかにハイレベルな戦いとなっているのが分かりますね。今シーズンは、その不足していた部分を埋めながら戦っていくことですか。

片桐：そのとおりです。昨年を振り返ると、日産/NISMOのドライバーの実力がライバルと比べて落ちるとは考えていません。Zも特性の違いはあれど、明らかに遅いということはありませんし、戦略についても、大きなミスをしたわけでもない。では、すべてを完璧に遂行できたのかというと……。ですから、足りない部分が少しづつあって、その掛け算を何回か繰返すうちに点差が開いてしまった。そういうことかなと考えています。

NB：昨年まで23号車のドライバーとして活躍したロニー・クインタレリ選手は、NISMOアンバサダー兼アドバイザーとしてチームを裏側から支えてくれるポジションになりました。どのような役割を期待されていますか？

片桐：ロニー選手はファンからの人気も非常に高く、関係を絶やしたくなかったという点もあ

りますし、彼自身とも『これから先、何をしたい？』という話をしました。ロニー選手は、日産/NISMOやSUPER GTについて、特にグローバルに発信をしたいという希望を持っていました。それは我々のやりたいことも方向性が一致します。具体的なことはこれから詰めていきますが、手始めにそうした取り組みをスタートしてみようかということになっています。

これまでとまったく違うことをやるというより、レースごとに内側も外側もきっちりファンの皆さんにお伝えし、様々なメディアへの対応やSNSを通じて、国内外に発信するという役割を担ってもらいたいと考えています。

NB：昨年まで23号車に乗っていたトップドライバーが様々な発信をしてくれるのは、チームにとっても大きいですね。

片桐：実際にドライバーの気持ちは誰よりも分かるでしょうから、ファンの皆さんから見ても興味深い取り組みになるのではないかなと思います。

NB：マネジメント面では、木賀新一 SVPが技術面、田中利和 CVPがスポーティング面を見る布陣となりました。

片桐：これは先ほど申し上げた三要素の掛け算ともかわる話です。ひとつひとつは小さな差でも、掛け算にすると振幅が大きくなり差がついてしまうということから、ひとりですべてを見るということは、限界があるかなと。高度で複雑なSUPER GTでは、データに基づいて、戦略性も持って、瞬時に判断していかなければならない状

況も多いです。三要素をきっちり噛み合わせるために、もう少し人的資源の配分を厚くしなければいけないなど。要は、きめ細かくきっちり普段から考えておくというスタイルにしたわけです。もちろん、これまでもそうしていなかったわけではありませんが、勝つためには、より充実させる必要があるということで、この体制としました。

さらに技術開発の面とスポーティング面がバラバラでは意味がありませんので、それをいかに結びつけるか。ふたりの知見を活かして、各チームをさらに強くしていきたいということです。

市販車の技術を応用し 好調のフォーミュラE

NB：ワークス活動のもうひとつの柱であるフォーミュラEはすでにシーズンがスタートしていますが、序盤から好調ですね。

片桐：競争は激しいので、ずっとこのままのポジションをキープするのは難しいと思いますが、ここまでの出だしは調子が良いと思います。

NB：昨年からの進化は、どういう部分にあると思われますか？

片桐：GEN3 Evoでは、ドライブレインをまったく新しく作り変えました。日産の開発力を活かし、市販車に用いられる技術の考え方を応用して、ギヤボックスなどの効率を0.1%でも上げるなど、細部まで徹底的に取り組んできたことが実を結んだと思います。

NB：5月17日（土）、18日（日）に開催され

激戦のSUPER GT。体制強化で王座奪還を目指す



24年シーズンは3号車、23号車ともに2度の表彰台を獲得。第2戦では1・2フィニッシュする強さを見せたが、王座奪還は25年に持ち越した。